

サブヒ・アフメドフ  
歴史学博士

# アゼルバイジャンの国立歴史博物館のコレクションに 展示されている日本の警察の剣

アゼルバイジャンの国立歴史博物館の日本武器のコレクションの中では、鞘のある剣が大きな関心をもたらす。この剣は刃と柄で成っている。機械で作られた刃

がスチールであり、わずかに曲がっており、全体が一つの刃を形成させる。丸太切れに沿って刃がある。刃の踵が緊密に固執する真鍮の袖で覆われており、その後ろに

ブレードのスロットを持つ楕円形のプレートがある。刀の柄は真鍮ガードと取っ手から出来ている。真ん中にわずかな拡大する扁平なストレート木製の



取っ手は黒革にカバーされ、捻じ曲げたワイヤラップのある直径のフルートをもつ。柄の後ろは真鍮のラス及び「鳩の頭」という特徴的な形状の柄頭が覆い、それは刀の鞘のひもを進める中空の手かせをもつ。柄のうしろには2つの交差させた旗のイメージが入り込んでいる。取っ手の下部に付いている滑らかなマフがその左側に鞘での刃のスプリングロックのボタン用のスロットがある。ガルダは、両端に偏向した丸めたリーフ貫で成っている。

鞘は全金属で、ニッケル、木製の挿入物付き、狭い口、劍帯リング一つのクリップと図示されたシューをもっている。

このように、展示されている劍は製造出現の時代・場所・種類を決定させる象徴をもっている。出品物は、19世紀後半～20世紀初期（明治時代）の日本の軍曹・警察の劍であるらしい。下士官兵用の劍はマイナーの詳細が異なる。（1）なお、取っ手のパッチの彫刻によって持参人のランクが分かっていた。將軍は、表面が空っぽで、柄



頭に菊の花の映像を有している。上級役員は、完全に桜のイメージで覆われた柄プレート付き劍、ジュニア役員は柄頭にひとつの花のある円滑なパッチをもっている。取っ手の長さによってはこの

劍の原点が決定できる。劍の量産は短い取っ手、古めかしい劍は長い取っ手を有していた。展示されている見本は一つの桜の花と短い取っ手がある。（2）既存の文献には、武器の



イリシュエフ画家、「ニコラスへの攻撃」

製造材料及び部品点数の名前がわかる。例えば、ブレードは「しのぎづくり」従来の形状をもつ。「はばき」は真鍮の遮断

マフで、楕円形のプレートは「せっぱ」、スムーズなマフは「ふち」と呼ばれていた。木製の取っ手は黒にされたサメ肌かアカエイの皮にカバーされていた。取っ手の後ろには通常国立記号、紋章（交差されている旗）があった。（3）

1868年の後、睦仁天皇明治天皇(1868-1912)は公的生活、行政、経済のあらゆる分野で行われている大規模な改革を行った。欧州の技術的成果を借用することは日本人のメンタリティーと一致させられた。剣の着用問題するのもこのことを明確に示されている。ということで、武士階級の政権を弱体化しようとするために、剣を運ぶことを拒否することが提案されたのは1868年であったが、拒否に直面した。長い闘いの後、1875年に、

「剣着用禁止」の命令が公表され、次のように述べられている。「今から、剣は軍当局、あるいは、同程度のランクのみ国家儀式の警察官と職員が着用することができ、かつ他の場合では、剣の着用が禁止され、この命令の犯罪者からは剣が没収されるものとなる」

。その結果は、職人が領軍・海軍のために剣を作るのを停止し、警察の剣は工業的に製造されるものとなった。実際には、剣は、武器のままながらも、もはや社会的なカーストの象徴ではなくなってきたのである。

工業生産の剣の製造にあたって、欧州モデルのサンプルに従うことになった。しかし、ブレードや柄デザインの形の詳細は、まだ日本の伝統が維持した。この時代改革の最初の形は1871年に採択されたが、最も一般的に受け入れられている剣が「旧軍刀」であり、その生産は1877年に始まった。旧軍刀は、1934年に「新軍刀」、武士の刀に非常に似ているモデルに交換された。ところが、警官のほとんどは旧軍刀を使用することが好ましかった。

日本の警察は、1874年（明治7年）に設立され、1906年8月（明治39年）は1945年まで変更されないままの法定の服や武器が導入された。

奇妙なことに、ジュニアランクの警官の旧軍刀の剣は歴史専門家の間だけでなく、政治史でもよく知られている。1891年4



月29日（5月11日）に起こったいわゆる大津事件は、剣に世界的な名声をもたらした。というのは、1891年に、極東洋旅行中訪問中のロシアのニコライ皇太子（将来のロシア皇帝ニコライ2世）が京都の近くにある大津市にて奇襲攻撃を受け、ある男は群衆の中から脱出攻撃し、ニコライ皇太子に剣でいくつかの傷害を引き起こした。周り人

々と保護者の迅速な対応のおかげで、攻撃者した津田三蔵ツダ・サンゾという男性を逮捕した。実際、津田三蔵はニコライの代表団の経路中に沿って立っていた警官だったの者をすぐに逮捕することができた。この犯罪には津田三蔵が終身刑の判決を受けた。彼らがどうしてこの事件を起こしたのか、原因が今も不明いまも未解決ままであ

る。彼は精神疾患だったかもしれない。（4）しかし、津田三蔵のことも、旧軍刀、日本の警官の標準式の剣を有名話題にしたのである。◆

参考文献

- 1 . 日本の儀礼刀。 <http://reibert.info/threads>を参照
- 2 . スルガン、「日本の刀の歴史」、<http://haralug.ru/Articles/Istoriya-yaponskogomecha-8-136>を参照
3. 騎馬警察の短刀、[antiquar.ru](http://antiquar.ru)を参照
4. 大津事件、ウィキペディア ◆



旧軍刀の取っ手の見本